

留萌川流域治水プロジェクト【中間とりまとめ】（案）

～北海道北西部の物流、地域経済の拠点「留萌市」を洪水被害から守る治水対策の推進～

第2回
留萌川流域治水協議会
会議資料

○令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、留萌川水系においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、留萌川流域で甚大な被害が発生した戦後第2位の昭和56年8月洪水と同規模の洪水を安全に流し、それを上回る戦後最大の昭和63年8月洪水と同規模の洪水を下流市街部では安全に流下させ、流域における浸水被害の軽減を図る。

【位置図】



■河川における対策

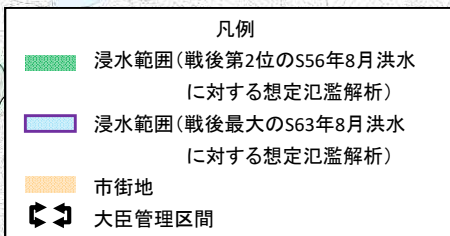
対策内容 導流堤改築、河道掘削 等

■流域における対策

- ・下水道等の排水施設、雨水貯留施設の整備
 - ・土地利用規制・誘導(災害危険区域等)
 - ・排水作業準備計画の作成
 - ・留萌ダムにおける事前放流等の実施・体制構築 等
- ※今後、関係機関と連携し対策検討

■ソフト対策

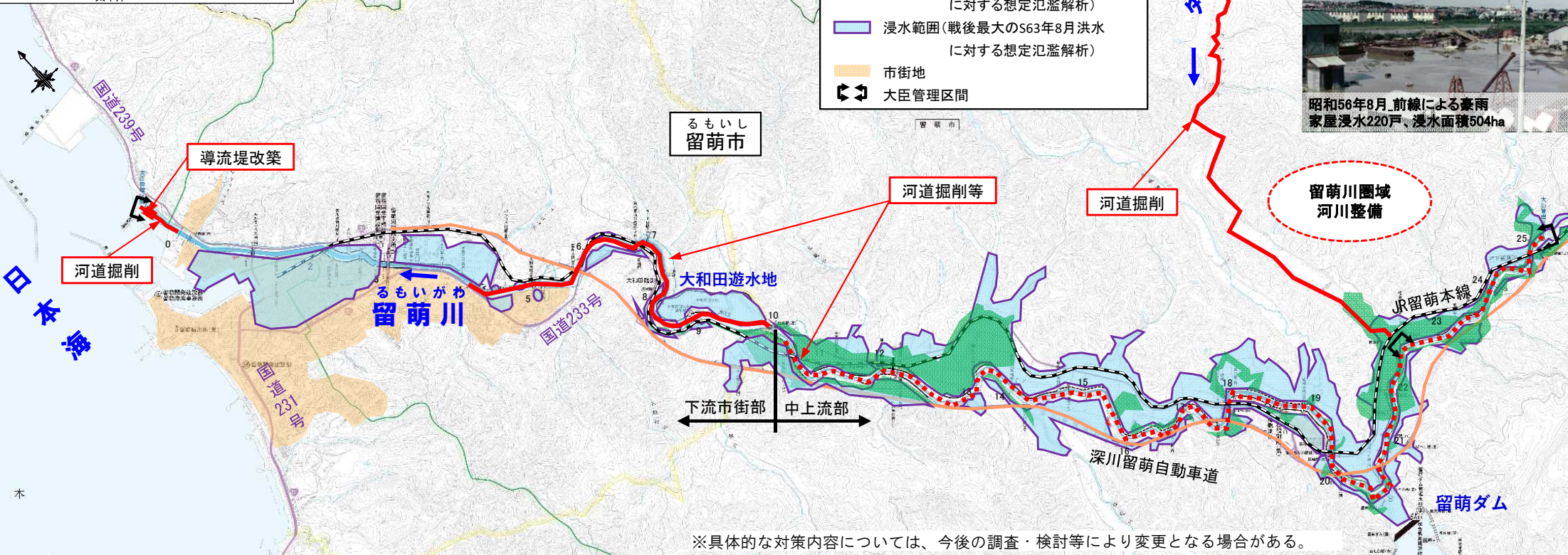
- ・水位計・監視カメラの設置
 - ・マイ・タイムラインの作成
 - ・防災情報伝達手段の整備検討、充実
 - ・水防意識啓発のための広報の充実
 - ・堤防決壊時の緊急対策シミュレーションの実施
 - ・防災教育等の実施
- ※今後、関係機関と連携し対策検討



昭和63年8月_前線による豪雨
家屋浸水3,376戸、浸水面積1,290ha



昭和56年8月_前線による豪雨
家屋浸水220戸、浸水面積504ha



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。